

がいし装置及び架線金具

(JEC-5204 : 2025)

がいし装置及び架線金具標準特別委員会

委員長 伊藤 裕明

幹事 松岡 直樹, 松下 良治, 山田 竜司
幹事補佐 竹端 聖也

1. はじめに

この規格の基となる JEC-207 (架空送電用架線金具) は、架空送電用がいし装置に使用されているがいし装置及び架線金具についての仕様を統一し、設計と製造の合理化を図るため、1979 年に JEC-207 として制定された。

この規格は、主として特別高圧架空送電線路に使用する、公称電圧 66~154kV の単導体、2 導体用がいし装置及び架空地線用装置並びにそれを構成する架線金具の「材料」、「形状」、「性能」、「試験」及び「検査」について具体的に規定しているが、2018 年の改定から 5 年近く経過し、溶融亜鉛めっきに関する日本産業規格の改正などの規格見直し要望を受け、がいし装置及び架線金具標準特別委員会にて改正したため、その概要を紹介する。

2. 経緯

2021 年 12 月 20 日付で溶融亜鉛めっきに関する日本産業規格 (JIS 規格 : JIS H 8641 及び JIS H 0401) が改正され、めっき皮膜規定が付着量から膜厚へと変更されるとともに、溶融亜鉛めっきの品質確認試験が、JIS H 8641 から分離し、JIS H 0401 (溶融亜鉛めっき試験方法) に統合されたことを受け、亜鉛めっき試験方法を見直した。

上記のほか、現行規格に記載のない両楔形引留クランプ及びボルト締付型耐張クランプ (SST) を使用したがいし装置の標準化と楔型引留クランプ及びボルト締付型耐張クランプ (SST) を規格化するとともに、腐食環境が厳しい地域等へ購入者が必要に応じて適用する厚めっき

(架線金具本体) 及びアルミニウム合金めっき (ボルト類) を規格化した。また、汎用性と自由度の両立による利便性向上の観点から、附属書 B と同一の機能を有する構造の採用が可能となる規定とした。

3. 主な改正点

主な改正点は、次のとおりである。

- (1) 規格票の様式:2020 に従って、全体構成を見直した。
- (2) 片楔形引留クランプ同様、両楔形引留クランプ及びボルト締付型クランプ (SST) を適用したがいし装置を追加した。
- (3) 送配電事業者の使用実態を踏まえ、楔型引留クランプ及びボルト締付型耐張クランプ (SST) の仕様を規格化した。
- (4) 亜鉛めっき試験方法について、JIS 改正に伴い、付着量試験から膜厚試験へ見直した。
- (5) 腐食環境が厳しい地域等へ使用されるめっき仕様を規格化した。
- (6) 利便性向上の観点から、附属書 B と同一の機能を有する構造の採用が可能となる規定とした。
- (7) 使用頻度の少ないがいし装置及び架線金具を規格から削除した。

<目次>

序文	7	構造
1 適用範囲	8	性能
2 引用規格	9	試験
3 用語及び定義	10	検査
4 使用状態	11	表示
5 種類及び記号	附属書 (A, B)	
6 材料及び製作	解説	

4. おわりに

がいし装置及び架線金具標準特別委員会の構成は、委員長・幹事・幹事補佐のほか委員の安齊豊、黒嶋公則、鈴木進、高石大輔、高田則之、多田納武志、谷口栄、中原達喜、西泰宏、松葉明、渡邊真司 (途中退任含む) の各氏にも参画いただいた。ご協力に心から感謝申し上げます。